



## 概要

滝川市は、中空知地域の商業・流通の中心都市として重要な役割を果たしているとともに周辺市町の交通拠点にもなっているが、人口の減少やマイカーの普及により、市内路線バスの利用が低迷しているほか、郊外部においては公共交通空白・不便地域が存在していることから、市内循環バスの利便性・満足度の向上、路線バスの利用促進策の推進、乗合タクシーサービス事業の実施や路線バス・乗合タクシー連携事業の実施等により、地域活性化に資する持続的な公共交通環境の実現を図る。

### 市内循環バスの利便性・満足度向上(21～23年度)

・店舗などを活用した待合施設の充実等、利用者ニーズに合わせたバス利用環境の改善に伴う市街地エリアへのアクセス、買物などの利便性・満足度向上による利用促進を検証するため、市内循環バスの実証運行を行う。

### 路線バス利用促進策の推進(21～23年度)

・商店街等各団体との連携による協賛イベントや地域懇談会の開催、買物ポイントサービスとの連携、小学生対象のバス乗車体験授業、高齢者のバス利用補助のための応援ボランティア制度の導入など、路線バスの各種利用促進事業を展開する。

### 乗合タクシーサービス事業の実施(21～23年度)

・路線バスの利用が困難な地域の移動手段確保のため、高齢者等を対象に、通院や買物を目的とした乗合タクシーの実証運行を行う。

### 路線バス・乗合タクシー連携事業の実施(21～23年度)

・観光シーズンにおける来訪者の観光ゾーンまでの移動手段メニューの開発や路線バス空白地域住民の買物・通院等のための移動手段確保を目的に、路線バスと乗合タクシーの連携による実証運行を行う。



## 滝川市地域公共交通活性化協議会 計画事業の取組状況

主な事業内容	協議会開催状況	3回開催	分科会等開催状況	-
<b>市内循環バス実証運行</b> ・中心市街地を中心に、バス停留所を設置するなどバス利用環境の改善を図り、中心市街地エリアのアクセスや買い物利便性向上による市内循環バスの利用促進の検証を目的とした実証運行を実施 <b>路線バスの利用促進策</b> ・商店街との連携によるバス乗車券の配布、「マイカー乗らないデイ」の設定、イベント時のバス利用支援など路線バス利用誘導策を実施 ・バス路線の重要性を理解するための地域懇談会の開催 ・市内小学校の総合学習の一環として、路線バス乗車体験など市内バスに関する授業の実施				回数は、平成21年度未だの開催予定
<b>乗合タクシーサービス事業</b> ・路線バス利用困難地域住民を対象に、買い物・通院用乗合タクシーサービス事業の実証運行を実施 <b>路線バス・乗合タクシーサービス連携事業</b> ・農村部の開花シーズンに、路線バスに接続して農村部を巡回する乗合タクシーと臨時循環バスの実証運行を実施 ・事業の効果・検証 ・アンケート調査の実施				

### 実施状況

<b>市内循環バス実証運行</b> ・平成21年10月1日から平成22年3月31日まで運行 ・中心商店街に3ヶ所バス停留所を新設し、バス待合スペースを整備するとともに、商店の営業時間帯に東西廻りの実証運行バス各8便運行 <b>路線バスの利用促進策</b> ・バス利用した買い物客への特典・サービス検討要請 平成21年10月1日から「バス乗車トクサービスカード」事業実施 ・地域懇談会の開催(2回) ・市内小学校の総合学習を活用したバスの乗り方教室の実施 <b>乗合タクシーサービス事業</b> ・高齢者の割合が高いエリアから医療機関までの通院用乗合タクシーサービスを計画したが、対象エリアのアンケート結果から、通院間隔が長く、1台に複数人の利用しか見込めず、乗合タクシーとしての運行効果が期待	できないことから事業中止 <b>路線バス・乗合タクシー連携事業</b> ・臨時循環バス 平成21年5月24日 1日間 菜の花祭り 無料(818人利用) 滝川市農村環境改善センター～滝川市丸加高原伝習館 30分間隔 10便運行 ・乗合タクシー 平成21年5月16日～5月31日 専用切符500円(525人利用) 「道の駅たきかわ」からの循環コース 路線バス利用切符1,100円 30分間隔 1日11便運行 ・コスモスの開花シーズンに路線バスに接続をしたジャンボタクシーを利用した乗合タクシーの実証運行を計画したが、開花時期予想が難しく、事前PRができなかったことなどから事業中止 ・事業の効果・検証 ・バス利用OD調査、乗合タクシー利用者・運転手、中心商店街、買物客へのアンケート実施
---	---

### 自己評価のポイント

・循環バスの実証運行について、OD調査から適切な事業と判断するもの、一層の利用促進と収支率向上が課題となっている。  
 ・菜の花乗合タクシーについて、利用者の評価も高く、連携された路線バス利用者も増加しているなど適切事業と判断され、一層の利用促進と本格運行に向けて運行を継続させる仕組みの確立が課題。

### 二次評価のポイント

自己評価のとおり、継続事業の検証を行い、次年度の計画に活かされることを期待する。